

1	愛想を尽かす あいそをつ	あきれて好意や愛情をすっかりなくし、関わり合いになりにたくないと思う。
2	開いた口が塞がらない あいたくちふさ	相手の行動や態度等の様子に驚き、あきれ返つてものが言えない。
3	相槌を打つ あいづちをう	相手の話にうなずいて、調子を合わせる。
4	合の手を入れる あいのていはい	人の話や歌などの間に、かけ声などの言葉や動作を差し込み盛り上げる。
5	阿吽の呼吸 あうんのこきゅう	二人以上の人が何かしている時、微妙な調子や気持ちがお互いに一致する。
6	青菜に塩 あおなしお	すっかり元気がなくなつて、しよげてしまう。
7	赤子の手をひねる あかごのてをひね	簡単に相手を負かしたり、物事をこなすことができる。
8	赤の他人 あかのたにん	全く関わりのない完全な他人。
9	胡坐をかく あぐらをかく	自分の地位や権力に甘えて努力をしない。
10	揚げ足を取る あしあしをと	人の小さなミスを目敏く見つけ、必要以上に相手を責める。
11	拳（揚）句の果て あけくくのは	最終的に。最後には。いろいろした結果。
12	顎が干上がる あごひあ	収入がなくなり、生活に困る。
13	顎で使う あごつか	高慢な態度で人を指図する。
14	顎を出す あごだ	疲れ切つてしまい、どうにもならない。
15	足が地に着かない あしちにつ	なにかに心を奪われ、興奮や緊張で、そわそわし、考えや行動がしつかりしない。
16	足が付く あし	犯人や逃亡者の身元や行方がわかる。悪事がばれる。
17	足が出る あしで	出費が収入を超え、赤字になる。隠し事がばれる。
18	足が棒になる あしぼう	長時間歩いたり立っていたりして、疲れて足がこわばる。
19	足に任せる あしまか	あてもなく気の向くままに歩く。足の力の続く限り歩く。
20	足の踏み場もない あしふまば	物が散らかり、足をおろすすき間もない。

21	味も素っ気もない あじもそけもない	おもしろ味に欠けて、つまらない。
22	足元（下）から鳥が立つ あしもととりた	身近に意外な事が起こる。急に慌てて行動を始める。
23	足元（下）に火がつく あしもとひがつく	身近に危険が迫っている。
24	足元（下）を見る あしもとみる	自分が有利になるように、相手の弱みに付け込む。
25	足を洗う あしあら	悪事をやめ、正しい生活に戻る。仕事をやめる。
26	足を奪われる あしうば	災害や事故、ストライキなどによって、交通機関が利用できなくなってしまう。
27	味を占める あじし	一度、うまくいった事を忘れられず、次も同様に期待する。
28	足をすくう あしすく	相手のすきをつき、失敗させる。
29	足を運ぶ あしはこ	わざわざ出向く。
30	足を引っ張る あしひくば	他人の成功や進歩に不利になるような行動をとる。
31	足を向けて寝られない あしむねね	尊敬する人や恩義を受けた人に対し、その気持ちをわすれない。
32	頭が上がらない あたまあがらない	引け目を感じて、相手と対等な関係にたつことができない。
33	頭が痛い あたまいた	心配事や問題に対し、苦しみ悩んでいる。
34	頭が固い あたまかた	一つの考えにこだわり、融通が利かない。
35	頭が切れる あたまき	物事をすばやく正確に判断できる。
36	頭が下がる あたまさが	心から尊敬、敬服する。
37	頭を抱える あたまかか	悩み事、心配事などに考えがまとまらず、困り果てる。
38	頭を冷やす あたまひや	興奮した気持ちを落ち着かせ、冷静になる。
39	頭をもたげる あたまたげる	はつきりと意識していない考えや疑問が浮かび上がる。力や勢力を得て台頭する。
40	呆気に取られる あつけと	予想できない出来事に出会って、驚きあきれる。

41	後味が悪い あとあじわる	物事が済んだ後でも、すつきりせずに気分が悪い。
42	後足で砂をかける あとあしすな	受けた恩を返すどころか、更に迷惑や損害を与えて去り、裏切る。
43	後の祭り あとまつ	時期に間に合わず、手遅れ。
44	後を引く あとひく	物事が終わっても、余波が続いて影響が残る。
45	危ない橋を渡る あぶなはしわた	承知した上で危険な手段をとる。
46	脂が乗る あぶらの	調子が良くなり、仕事や勉強がはかどる。
47	油を売る あぶらう	仕事中に無駄話をして怠ける。
48	油を絞る あぶらしぼ	過ちや失敗をひどく責め、きびしくしかる。
49	甘い汁を吸う あまじる	自分では、苦勞せず、利益を得る。
50	天の邪鬼 あまじゃく	何事にもわざと人に逆らうひねくれ者。
51	合わせる顔がない あわせるかお	申し訳ない気持ちから、相手に会いに行くことができない。
52	泡を食う あわく	ひどく驚き慌てる。
53	案の定 あんじよう	思っていた通り、予想した通りに事が運ぶ。
54	生き馬の目を抜く いきうまめぬ	物事を素早く行い、他人を出し抜き利益を得るさま。
55	息が合う いきあ	互いの気持ちや調子がぴったり合う。
56	息が切れる いきき	激しく運動し、呼吸がしにくい。息が続かない。
57	行きがけの駄賃 いきがけだちん	ある事のついでに、他のことをして利益を得る。
58	息が詰まる いきづまる	緊張で息苦しくなる。
59	息が長い いきなが	一つのこと長期にわたって持続している。
60	息を凝らす いきこ	息を抑えて緊張する。

61	息を殺す いきころ	呼吸の音を極力抑えじつとしている。
62	息をつく いき	ほつとする。一休みする。
63	息を呑む いきの	驚きで一瞬息をすることも忘れる
64	息を弾ませる いきはす	運動や興奮で、呼吸が荒くなる。
65	息を吹き返す いきふかえ	だめになる寸前の物事が立ち直る。生き返る。
66	石にかじりついて いし	どんなに苦勞しようとも。何としても。
67	痛くも痒くもない いたかゆ	全く苦痛がない。何の影響もない。
68	痛くもない腹を探られる いたはらさぐ	何もやましい事はないにも関わらず、あれこれと疑いをか けられること。
69	痛し痒し いたかゆ	二つの方法のどちらをとつても不都合が生じてしまうた め、どちらにしたらよいか迷う。
70	鮒ごっこ いたち	同じことを何度も繰り返し、解決しない。
71	板につく いた	経験を重ね、態度や物腰が、役割にしつくり合う。
72	至れり尽くせり いた	すべてに細かく心配りがなされ、申し分ない。
73	一か八か いちばち	結果はわからないが、運を天に任せてやってみる。
74	一から十まで いちじゅう	何から何まで。すべて。最初から最後まで。
75	一も二もなく いちに	何か言うまでもなく。異議なく。即座に。
76	一卷の終わり いっかん	すべてが終わる。もはや手遅れである。死んでしまう。
77	一国一城の主 いっこくいちじょう	誰の援助や指図も受けず、自立した人物。
78	一刻を争う いっこく	わずかな時間もなく、余裕がない。
79	一糸乱れず いっし	わずかな乱れもなく整然としている。
80	一矢報いる いっしむく	相手の攻撃に反撃し、少しでも仕返しをする。

81	一石を投じる いっせき どう	従来の考えや意見に、新たに問題を投げかける。 じゅうらい かんがえ いけん 新たに もんだい をな
82	一線を画す いっせん かく	境界線を引き、区別をはつきりさせる。 きょうがいせん ひ 区くべつ
83	一杯食わされる いっぱい しく	うまくたまされる。相手のたくらみに引つかかる。 あいて
84	居ても立っても居られない い たて も 居い られ ない	焦りや不安で心が落ち着かず、じつとしていられない。 あせ ふ あん こころ お
85	意表を突く い ひょう つか	相手が思ってもいないことをして、驚かせる。 あいて おも おどろ
86	色を失う いろ うしな	恐れや驚きで、顔色が悪くなる。青ざめる。 おそ おどろ かおいろ わる あお
87	色を付ける いろ つけ	商売でおまけや、割り引きをする。 しょうばい わり
88	引導を渡す いんどう わた	最終宣告をし、あきらめさせる。 さいしゅうせんこく
89	上には上がある うえ うえ	どんなに優れていると思っても、更に優れたものがある。 すく おも さらに すく
90	浮き足立つ うき あし だ	恐怖や不安で動揺し落ち着きがなくなる。逃げ腰になる。 きょうふ ふ あん どうよう おち ぎやう こ 逃に げ
91	雨後の筍(竹の子) うご たけのこ	似たような物事が続いて現れる。 にた ものじやう こと つづいて あらわ
92	後ろ髪を引かれる うし かみ ひ	未練が残り、なかなか思い切れない。 みれん のこ おも
93	後ろ指を指される うし ゆび さ	知らないところで悪口を言われる。陰口を叩かれる。 しらない ところ で わるぐち を い われる。 かげぐち を たた
94	嘘八百 うそ はつびやく	多くの嘘。全くのでたらめ。 おほ うそ まった
95	うだつが上がらない うだつ あがら ない	地位が低いまま、なかなか出世できない。何事もうまくい ちゐが ひく なかなか しゅせ できない。 なにじやう
96	有頂天になる う ちようてん	喜びで舞い上がり我を忘れる。 よろこび まあがり われを わす
97	現を抜かす うつ ぬ	なにかに心を奪われ、本来行うこと以外に夢中になる。 なにかに こころ を さらわれ、 ほんらい 行う こと いがい に めちゆう
98	腕が上がる うで あ	技術や能力、腕前が上達する。 ぎじゆつ のうりよく うでまえ
99	腕が立つ うで た	腕前が優れている。 うでまえ すぐ
100	腕に覚えがある うで おぼ	自分の技術や能力、力量に自信をもっている。 じぶん のぎじゆつ のうりよく りきりやう じしん

101	腕 うで に縫 よ いを掛 か ける	自信 じしん のある技術 ぎじゆつ や能力 のうりよく を十分 じゅうぶん に発揮 はつき しようと意気 いき 込む。
102	打 う てば響 ひび く	すぐに応 はん 応 のう する。
103	腕 うで を振 ふ るう	技術 ぎじゆつ や能力 のうりよく を十分 じゅうぶん に発揮 はつき する。
104	腕 うで を磨 みが く	技術 ぎじゆつ や能力 のうりよく を向上 こうじやう させるため努力 どりよく する。
105	独活 うど の大木 たいぼく	体 からだ が大きいだけで、何 なん の役 やく にも立 た たない者 もの 。
106	鰻登 うなぎのぼ り	物価 ぶつか 、人気 にんき 、気温 きおん などが急激 きゅうげき に上 あ がっていく。
107	鵜吞 うの みにする	物事 ものごと の内容 ないよう 、真意 しんい をよく理解 りかい せず、受 う け入 い れてしまふ。
108	鵜目 うめ 鷹 たか の目 め	熱心 ねっしん に何 なに かを探 さが しているようす。
109	馬 うま が合 あ う	互 たが いの心 こころ がぴつたりと合 あ う。気 き が合 あ う。
110	海 うみ の物 もの とも山 やま の物 もの ともつかない	物事 ものごと の得 え 体が知 し れず、将来 しやうらい どうなるかわからない。
111	有無 うむ を言 い わせず	文句 もんく を言 い わせず。相手 あいて の意見 いけん に関 か わらず。無理 むり やり。
112	裏目 うらめ に出 で る	良い結果 けつか を期待 きたい して行 おこな ったことが、逆 さか に悪い結果 けつか になる。
113	裏 うら をかく	相手 あいて の思惑 おもひ とは反対 はんたい のことをして、相手 あいて を出 だ し抜 ぬ く。
114	売 う り言葉 ことば 買 か い言葉 ことば	相手 あいて の暴言 ぼうげん に對 たい し、同様 どうじやう に暴言 ぼうげん で返 かえ す。
115	瓜二 うりふた つ	顔 かお や姿 すがた など容姿 ようし がよく似 に ている。
116	上 うわ の空 そら	他 ほか のことに気 き を取 と られ、目 め の前 まえ のことに集中 しゆちゆう できない。
117	得手 えて に帆 ほ を揚 あ げる	得意 とくい なことを発揮 はつき できる機会 きかい が到来 とうらい し、張り切 は る。
118	絵 え に描 か いた餅 もち	計画 けいかく だけで実際 じつさい には何 なん の役 やく にも立 た たない。実現 じつげん する見込 みこ みがない。
119	襟 えり を正 ただ す	気持 きもち ちを引 ひ き締 し め、まじめに事 こと にあたる
120	縁 えん もゆかりもない	何 なん のかかわりもない。

121	おうむ返し がえ	相手の言動と同じ言動で受け答える。
122	大きな顔をする かお	分不相応に威張った態度を取る。悪事を働きながら平然としている。
123	大きな口をきく くち	偉そうな言動をする。
124	大船に乗ったよう おおぶねの	信頼したものに安心して任せる。
125	大風呂敷を広げる おおぶろしきひろ	現実的ではないほど大げさな事を言う。
126	大目玉を食う おおめだまをく	目上の人からひどく叱られる。
127	大目に見る おおめみ	失敗や悪い行いを、厳しくとがめない。
128	奥歯に物が挟まる おくばのものがはさ	言いたいことをはっきりと言わずに、隠し事をしているような言い回しをして、すっきりしない。
129	おくびにも出さない だ	物事を深く隠し、決して口や態度に出さない。
130	後(遅)れを取る おくをと	先を越される。出遅れる。
131	お茶を濁す ちやにご	その場しのぎの行動でごまかしたり、取り繕う。
132	音に聞く おとき	人伝いや、噂に聞くほど名高く有名である。
133	同じ穴の貉 おなあなむじな	関係ないように見えるが、実は同類、仲間である。
134	鬼が笑う おにわら	実現性や見通しがはつきりしない未来の事を言う人からかう言葉。
135	鬼の首を取ったよう おにくびをと	大きな功名、手柄を立てたかのように喜び得意になる。
136	お鉢が回る はちまわ	自分に順番が回ってくる。
137	思う壺 おもつぼ	意図したとおり。予想したとおり。たくらみどおり。
138	重荷を下ろす おもにお	責任を果たしほつとする。心配事が解決し安心する。
139	親の脛をかじる おやすね	経済的に自立できず、親に頼って生活する。
140	親の光は七光 おやひかりななひかり	親の地位や名声に、子供が恩恵を受ける。

141	折り紙付き お みがみ つけ	人の人格、技術や物の価値、品質が優れたものと定評があり保証されている。
142	音頭を取る おん ど と	人が集まり物事をする時に先頭に立ちまとめていく。
143	恩に着せる おん きて	恩を施し、そのことをありがたく思わせようとする。
144	恩を仇で返す おん あだ へ	恩人に対し、害を与える。
145	飼い犬に手を噛まれる か いぬ て か	日頃から面倒を見ていた人物から裏切られる。
146	灰燼に帰す かい じん き	跡形もなく、すべて燃え尽きてしまう。
147	快刀乱麻を断つ かい どう らん ま た	こじれた物事を見事に解決する。
148	顔色をうかがう か おいろ	相手の表情をみて、気持ちや機嫌を探る。
149	顔が売れる か お う	顔が広く知れ渡り、有名になる。
150	顔が利く か お き	信用や力があるため、相手に融通してもらえる。
151	顔が立つ か お た	世間に対して、面目や体面が保たれる。
152	顔がつぶれる か お	世間に対して、面目や体面をうしなう。
153	顔が広い か お ひろ	知り合いが多い。多くの人と付き合いがある。
154	顔から火が出る か お ひ で	恥ずかしくて顔が赤くなる。
155	顔に泥を塗る か お どりぬ	名誉を傷つけ、恥をかかせる。
156	顔を売る か お う	広く世間に知られるように売り込む。
157	顔を出す か お だ	姿を見せる。人の家に訪問する。会合などに出席する。
158	影が薄い かげ うす	元気がなく、存在が目立たない。
159	影になり日向になり かげ ひなた	見える所でも見えない所でも、様々に援助する。
160	影も形もない かげ かたち	そこにあった様子などまるでない。何も残っていない。

161	影 かげ を潜 ひそ める	目立 めだ っていた物事 ものごと が姿 すがた を隠 かく す。
162	籠 かご の鳥 とり	身 み の自由 じゆう が奪 うば われている。
163	風上 かざかみ にも置 お けない	性質 せいしつ や行動 こうどう が卑劣 ひれつ で仲間 なかま として認め みと られない。
164	笠 かさ に着 き る	自分 じぶん や後援者 こうえんしや の権力 けんりよく や地位 ちい など、有利 ゆうり な立場 たちば を利用 りよう し威張 いば る。自分 じぶん の施 おし した恩 おん を理由 りゆう に、勝手 かつて な行動 こうどう をとる。
165	風 かぜ の便り たよ	どこからともなく伝 つた わってくる噂 うわさ 。
166	風 かぜ の吹 ふ き回 まわ し	その時々 ときとき の一定 いってい しない気分 きぶん や加減 かへん 。
167	方 かた (片)が付 つ く	物事 ものごと の処理 しゆり が終 お わる。決着 けつちやく がつく。
168	固唾 かたず を呑 の む	事 こと の成り行き なりゆき を緊張 きんちやう しながら見守 みまも る。
169	肩 かた で息 いき をする	肩 かた を上下 じやうげ させ、苦し くる そうな様子 ようす で息 いき をする。
170	型 かた にはまる	決まりきった形式 けいしき や方法 ほうほう で、独創性 どくそうせい がない。
171	肩 かた の荷 に が下 お りる	責任 せきにん や負担 ふたん から解放 かいほう される。
172	片腹 かたはら 痛い	身 み の程知 ほどし らずの相手 あいて が、おかしくてたまらない。
173	片棒 かたぼう を担 かつ ぐ	仕事 しごと や計画 けいかく に協力 きやうりよく する。多く、悪事 あくじ について用 もち いられる。
174	肩身 かたみ が狭 せま い	世間 せけん に対して引 ひ け目 め を感じ かん じ、恥 は ずかしく思 おも う。
175	語 かた るに落 お ちる	問 と い詰 つ めても、なかなか言 い わないが、意識 いしき させずに話 はな させると、うっかり秘密 ひみつ を漏 も らす。
176	肩 かた を怒 いか らす	肩 かた を高く起 お こして、相手 あいて に威圧 いあつ 的な態度 たいど をとる。
177	肩 かた を落 お とす	がつかりして気力 きりよく を失 うしな い、肩 かた が垂 た れ下 さ がる。
178	方 かた (片)を付 つ ける	物事 ものごと を終 お わりにする。決着 けつちやく をつける。
179	肩 かた を並 なら べる	能力 のうりよく や地位 ちい などが同格 どうかく で対等 たいどう な位置 いち にある。
180	肩 かた を持 も つ	対立 たいりつ するどちらか一方 いつぱう の味方 みかた をする。ひいきする。

181	活 かつ を入れる	刺激 しげき を与 あた えて、元 げん 気 き づけ、気 き 力 りよく を奮 ふる い立 た たせる。
182	合 が 点 てん がいかな	納 な 得 とく いかな。腑 ふ に落 お ちない。
183	角 かど が立 た つ	相 あ 手 て に對 たい する言 げん 動 どう が原 げん 因 いん で関 かん 係 けい が悪 わる くなる。
184	金 かね が物 もの を言 い う	金 かね の力 ちから が大 おお きい。
185	兜 かぶと を脱 ぬ ぐ	相 あ 手 て に敵 かな わない事 こと を認 み め、降 こう 参 さん する。
186	鎌 かま を掛 か ける	言 こと 葉 は 巧 たく みに相 あ 手 て に問 と いかけ、知 し りたい事 こと を聞 き き出 だ す。
187	蚊 か 帳 や の外 そと	物 もの 事 ごと に関 かか わることができな。仲 なか 間 ま 外 は れ。
188	烏 からす の行 ぎよう 水 すい	入 によう 浴 よく 時 じ 間 かん が短 たん 時 じ 間 かん である。
189	借 か りてきた猫 ねこ	普 ふ 段 だん とちがい、おとなしい様 よう 子 す 。
190	枯 か れ木 き に花 はな	衰 おじ えたものが再 ふた た栄 さか える。
191	閑 かん 古 こ 鳥 どり が鳴 な く	人 ひと 気 け がなく、寂 さび れてしまつた様 よう 子 す 。
192	眼 がん 中 ちゆう にない	全 まった く気 き にかけない。関 かん 心 しん がない。
193	癩 かん に障 さわ る	腹 はら 立 だ たしく気 き に入 い らない。
194	堪 かん 忍 にん 袋 ぶくろ の緒 お が切 き れる	我 が 慢 まん の限 げん 界 かい を超 こ え、怒 いか りが爆 ばく 発 はつ する。
195	看 かん 板 ばん に偽 いつわ りなし	外 がい 見 けん と中 なか 身 み 、言 こと 葉 は と行 こう 動 どう が一 いつ 致 ち している。
196	気 き が多 おほ い	心 こころ が移 うつ りやすく、関 かん 心 しん や興 きよう 味 み がすぐに変 か わる。
197	気 き が置 お けな	気 き 遣 づか い、遠 えん 慮 りよ なく心 こころ が許 ゆる せる。
198	気 き が重 おも い	なにかしようにも気 き が進 すす まず、やる気 き が出 で ない。
199	気 き が利 き く	細 こま かいところまで注 ちゆう 意 い が行 い き届 とど く。しやれている。
200	気 き が気 き でない	不 ふ 安 あん や心 しん 配 はい で落 お ち着 つ かない。

201	機が熟す くわがじゅく	物事を始めるのに最も適した時期になる。
202	気が進まない きすすまな	積極的(yokukyoku)にやりたくない。気乗り(きもの)しない。
203	気が立つ きたち	感情(かんじょう)が高ぶり、興奮(こうふん)する。
204	気が小さい きちひさい	小さなことまで気にする。小心者(しやうしんもの)。
205	気が散る きちる	一つのこと(ひとこと)に気持ち(きもち)が集中(しゆうちゆう)できず、散漫(さんまん)になる。
206	気が付く きがつく	あることがわかる、考え(かんが)が及ぶ(およぶ)。細かく配慮(はいりよ)が行き届く(とどく)。意識(いしき)を取り戻す(もどす)。
207	気が強い きつよい	自分の意見(いけん)や考え(かんが)を容易(ようい)に変え(か)ない。勝ち気(かき)である。
208	気が遠くなる きとおなる	意識(いしき)が薄れる(うす)。物事(ものごと)の規模(きば)が膨大(ぼうだい)で想像(そうぞう)がつかない。
209	気が咎める きとがめる	うしろめたい気持ち(きもち)になる。
210	気がない きない	関心(かんしん)がない。
211	気が長い きがなが	のんびりしていて、焦つたり、いらいらしない。
212	気が抜ける きがぬける	気持ち(きもち)が入らず(はいらず)やる気(き)がなくなる。飲み物(もの)の風味(ふうみ)がなくなる。
213	気が早い きははや	何かと先(まへ)を急ぐ(いそぐ)。せっかちである。
214	気が引ける きがひける	うしろめたさ(さ)を感じ(かんじ)、ためらう。
215	気が回る きがまわる	細かいところまで注意(ちゆうい)し配慮(はいりよ)が行き届く(とどく)。
216	気が短い きみじか	すぐに怒つたりいらいらする。忍耐(にんたい)強くなく、せっかち。
217	気が向く きむく	その気(き)になる。関心(かんしん)を持つ。
218	気が滅入る きめいいる	気持ち(きもち)が沈み(しずみ)、憂鬱(ゆううつ)な気分(きぶん)になる。
219	気が弱い きよわ	自信(じしん)が持てずに、性格(せいかく)や考え(かんが)が消極的(しょうきよく)である。
220	聞き耳を立てる きみみみみ	小さな音(おと)でも聞き漏(も)らさぬよう集中(しゆうちゆう)して聞(き)こうとする。

221	聞く耳を持たない	相手の意見や忠告などを聞く気がない。
222	機嫌を取る	人の気分を良くしようと働きかける。
223	机上の空論	頭の中で考えただけで、実際には何の役にも立たない理論や計画。
224	帰心矢のごとし	家や故郷に早く帰りたいという気持ちがとても強い。
225	機先を制する	相手より先に行動を起こし、相手を翻弄する。
226	狐につままれる	意外な事が起こりわけがわからず茫然とする。
227	木で鼻を括る	冷たく無愛想な態度を取る。
228	軌道に乗る	物事が計画通りに進むようになる。
229	気に入る	好きになる。良いと感じる。
230	気に掛ける	心に留め、心配する。
231	気に食わない	嫌だと感じる。不満に思う。
232	気に病む	いろいろな心配して思い悩む。
233	着の身着のまま	今着ている服以外には何も持っていない。
234	気は心	贈り物の値段や量はささやかだが、心が込められている。
235	牙を剥く	攻撃の意思を持って襲い掛かる。
236	きまりが悪い	周囲に対して面目が立たない。恥ずかしい。
237	木目が細かい	細かく丁寧に気が配られている。
238	肝(胆)が据わる	恐れたり、驚くことなく落ち着いている。
239	肝(胆)が太い	度胸があり、少々のことでは動じない。
240	肝(胆)に銘じる	心に深く刻み、忘れない。

241	肝(胆)をつぶす	とても驚く。
242	肝(胆)を冷やす	恐ろしい事態に驚き、ひやりとする。
243	脚光を浴びる	世間の注目を集める。
244	灸を据える	厳しく叱り、こらしめる。
245	行間を読む	文字には書かれていない、筆者の真意、意図を読み取る。
246	気を落とす	失望して元気をなくす。
247	気を配る	様々な事に注意をはらい、配慮する。
248	気を取られる	注意を奪われる。
249	気を取り直す	良い方向に進めるように気分、心を入れ替える。
250	気を回す	必要以上に考えすぎて、余計な憶測、邪推をする。
251	気を揉む	あれこれと心配して、やきもきする。
252	気を許す	相手を信用し、警戒心や緊張を解いて油断する。
253	食うか食われるか	相手を倒すか、こちらが倒されるか際どい命がけの勝負。
254	釘を刺す	あとで言い逃れや間違いのないように念をおす。
255	臭い物に蓋をする	都合の悪いことを一時的に隠し、ごまかす。
256	草の根を分けて捜(探)す	あらゆる方法を用いて、隅々まで捜す。
257	口が重い	口数が少ない。無口。言いたくない。
258	口が堅い	秘密を軽々しく他に漏らさない。
259	口が軽い	秘密などを軽々しく話してしまう。
260	口が滑る	言っではいけないことをついすっかり話してしまう。

261	口が減らない	何を言われても、勝手な理屈を並べて言い返す。
262	口車に乗る	言葉巧みにおだてられ、だまされる。
263	くちばしが黄色い	幼く、未熟で経験が足りない。
264	口火を切る	一番先に行動し、きっかけを作る。
265	口も八丁手も八丁	話すことも、することも非常に長けている。
266	口を利く	話をする。仲を取り持つ。
267	口を酸っぱくする	何度も繰り返し返し忠告する。
268	口をつぐむ	口を閉ざし話をやめる。
269	口を尖らせる	唇を突出し、不満を表情にだす。
270	口を拭う	悪事を働きながら、無関係を装う。知っているのに知らないうりをする。
271	口を挟む	他人の会話に割り込んで話す。
272	口を割る	白状する。
273	苦肉の策	苦し紛れに考え出した方法。
274	首が回らない	借金などでお金がなくなり、どうしようもない。
275	首になる	解雇され、職を失う。
276	首を傾げる	不思議や疑問に思う。
277	首を切る	解雇する。仕事をやめさせる。
278	首を長くする	期待して待ち望む。
279	軍配が上がる	勝利が決定する。
280	群を抜く	多数の中で特別に優れている。

281	芸がない げいがない	工夫もなく、おもしろみに欠ける。
282	怪我の功名 けががこうみょう	失敗や過失と思ったことが、思いがけず良い結果を生む。
283	下駄を預ける げたをあず	物事の処理法や責任の一切をすべて他人任せにする。
284	煙に巻く けむにま	相手の知らないことや、大げさなことを言い立てて、相手を惑わせたり、ごまかす。
285	けりを付ける	決着をつけ、終わりにする。
286	甲乙付け難し こうおつたがた	二つを比べても差がなく、優劣がつけられない。
287	業を煮やす ごうに	思うように物事が進まず、腹を立てる。
288	心が通う こころがとお	互いの気持ちを通じ合う。
289	心が弾む こころはす	うれしくて気持ちがうきうきする。
290	心を奪われる こころをうば	あるものに強く魅力を感じたり感銘を受け、夢中になる。
291	心を鬼にする こころをおに	かわいそうと思いつつも、その人のために厳しくする。
292	腰が強い こしがつよ	気が強く、あきらめない。粘り気や弾力がある。
293	腰が低い こしがひく	人に対して、へりくだって控えめな態度でいる。
294	腰を折る こしをお	途中で邪魔をする。
295	腰を据える こしをす	落ち着いて物事に取り掛かる。ある場所に落ち着く。
296	腰を抜かす こしをぬ	驚きや恐怖で立てなくなる。
297	言葉を濁す ことばににご	はっきりと言わずにあいまいな言い回しをする。
298	胡麻を擂る ごまをす	気に入られるようにとへつらい機嫌を取ったり、お世辞を言う。
299	小耳に挟む こみみはさ	聞くつもりもないが、ちらりと聞く。
300	転んでもただでは起きない ころんでもただではお	失敗してもそこから、何かを見つけ出すほど欲深い。

301	砂上の楼閣 さじょうろうかく	見かけはよいが、基礎がなっておらず、すぐに壊れてしまうような計画。
302	さじを投げる な	もうどうにもならないと見込みあきらめる。
303	思案に暮れる しあんく	いくら考えても考えが定まらず、思い悩む。
304	歯牙にも掛けない しがか	全く問題にしない。無視する。
305	敷居が高い しきいたか	不義理な事をしてしまった相手の家に行きにくい。
306	舌の根の乾かぬうち したねかわ	言い終えたすぐ後。
307	十指に余る じっしあま	十本の指では数えられない数。
308	尻尾を出す しつぽだ	隠しごとがばれる。正体を現す。
309	しのぎを削る けず	力を出し切って激しく戦う。
310	しびれを切らす き	長く待たされ、我慢ができなくなる。
311	白羽の矢が立つ しらはやた	数ある中から、特に選ばれる。
312	白を切る しらき	本当は知っているのに知らばくれる。
313	尻馬に乗る しりうまの	他人につられて、考えなしに調子に乗って真似をする。
314	尻が重い しりおも	めんどくさがって、なかなか動こうとしない。
315	尻が軽い しりかる	気軽に物事に取り掛かる。軽はずみ。
316	尻に火がつく しりひ	差し迫った事態となり、追い詰められる。
317	白い目で見る しろめ	冷たく、悪意や憎しみのこもった目で見る。
318	雀の涙 すずめなみだ	とても少ない。ごくわずか。
319	脛をかじる すね	経済的に自立できず、親に頼って生活する。「親の脛をかじる」と同意。
320	隅に置けない すみお	思いの外に知識や能力が高く、油断ならない。

321	背に腹は代えられない	大きなことをするときには小さなことは犠牲にしても仕方がない
322	世話を焼く	進んで他人の手助けをする
323	俎上に載せる	ある物事や人物を議論、批評、考察の対象として取り上げる
324	対岸の火事	他人にとっては重大な問題だが、自分には関係がないため何の苦痛もない。
325	太鼓判を捺す	人や物などの評価が確実であると保証する。
326	大なり小なり	程度の差はあっても。多かれ少なかれ。
327	たがが緩む	緊張が緩み、まとまりややる気がなくなる。
328	高嶺（根）の花	ただ見ているだけで、手に入れることができずあこがれるだけの存在。
329	高飛車に出る	相手を威圧し一方的に押し付けるような態度を取る。
330	高みの見物	第三者の立場で遠くから安全に眺める。
331	宝の持ち腐れ	役に立つ能力や物を持つていながら使わずにいる。
332	高を括る	大した程度ではないと予測し見くびる。
333	竹を割ったよう	気性がまっすぐで、さっぱりとした性格。
334	叩けばほこりが出る	どんなものでも細かく調べると、欠点や弱点が見つかる。
335	太刀打ちできない	相手の実力に遠く及ばず、戦っても相手にならない。
336	立つ瀬がない	立場を失い、面目が立たない。
337	手綱を締める	勝手なことをしないように、他人の行動などを制限する。
338	立て板に水	すらすらとよどみなく話す様子。
339	盾（楯）にとる	ある物事を材料に、言い訳をしたり言いがかりをつける。
340	縦の物を横にもしない	面倒臭がつて、ほんのちよつとしたこともしない。

341	棚 たな に上 あ げる	自分 じぶん に不都合 ふつごう なことは先送り さきわく にして触れ ふ ずにおく。
342	他人 たにん の空似 そらに	血 ち のつながりなどではなく、偶然 ぐうぜん 顔つき かお が似 に ている。
343	狸寝入 たぬきねい り	都合 つごう の悪い時 とき などに寝たふりをする。
344	種 たね をまく	物事 ものごと の原因 げんいん 、元凶 げんきよう を作 つく る。
345	頼 たの みの綱 つな	頼 たの りにしている人 ひと や物 もの 。
346	駄目 だめ を押 お す	間違 まちが いがないと思 おも われる事柄 ことがら について、確認 かくにん して更 さら に確実 かくじつ にする。
347	袂 たもと を分 わ かつ	共 とも に行動 こうどう してきた者 もの と別 わか れる、関係 かんけい を断 た つ。
348	便り たよ のないのは良 よ い便り たよ	何かあれば連絡 れんらく があるはずなので、何 なん の連絡 れんらく もないのは、何事 なにこと もない証拠 しんこ である。
349	血 ち が通 かよ う	思いやりや気遣 きづか いがあり、人間 にんげん らしい温か あたた さを感じ かん じる。
350	血 ち が騒 さわ ぐ	興奮 こうふん して、じつとしていられなくなる。感情 かんじよう が高 たか ぶる。
351	血眼 ちまなこ になる	目を血走 ちばし らせ、冷静 れいせい さを失 うしな うほど必死 ひっし になる。
352	血 ち も涙 なみだ もない	思いやりや優し やさ さなど人間 にんげん 的な感情 かんじよう がなく、冷酷 れいこく 。
353	茶々 ちやちや を入 い れる	途中で邪魔 じゃま をしたり、冷や ひ かす。
354	長蛇 ちやうだ の列 れつ	蛇 へび のように長 なが く続 つづ く列 れつ 。
355	血沸 ちわ き肉躍 にくおど る	興奮 こうふん して気持 きも ちが高 たか まり、活力 かつりよく がでる。
356	月夜 つきよ に提灯 ちやうちん	不必要 ふひつよう なこと。無駄 むだ なこと。
357	付け焼刃 つけやきば	その場限 ばかぎ りの間 ま に合 あ わせて知識 ちしき や技術 ぎじゆつ を習 なら い覚 おぼ える。
358	旋毛 つむじ を曲 ま げる	気分 きぶん を害 がい して、ひねくれた態度 たいど を取 と る。
359	爪 つめ に火 ひ をともす	とても貧 まず しい。ひどくけち。
360	爪 つめ の垢 あか ほど	ごくわずか、非常 ひじょう に少 すく ないことの例 たと え。

361	爪 つめ の垢 あか を煎 せん じて飲 の む	優れた人物 じんぶつ の事 こと を少しでも見習 みなら おうとする気持 きもち ち。
362	面 つら の皮 かわ が厚 あつ い	ずうずうしく、厚 あつ かましい上 うへ に、それを恥 はじ とも思 おも わない。
363	鶴 つる の一声 ひとこえ	多くの意見 いけん をおさえつけ、否応 いやおう なしに従 したが わせる権力者 けんりよくしや の一 ひと 言 こと 。
364	手 て が空 あ く	仕事 しごと が一段落 ひとだんらく し、時間 じかん ができる。
365	手 て が掛 か かる	世話 せわ がやける。手間 てま がかかる。
366	手 て が込 こ む	技術 ぎじゆつ が優 すぐ れ、複雑 ふくざつ できめ細 こま かい細工 さいく 。また、複雑 ふくざつ な物事 ものごと 。
367	手 て が付 つ けられない	処置 しよち のしようがない。
368	手 て が出 で ない	自分の能力 のうりよく ではどうすることもできない。
369	手 て が届 とど く	自分の能力 のうりよく でどうにかなる。もう少しである段階 だんかいかい に到達 とうたつ する。細 こま かく配慮 はいりよ がなされている。
370	手 て が早 はや い	物事 ものごと をてきぱきと的確 てきかく に処理 しゆり する。すぐに暴力 ばうりよく をふるう。
371	手 て ぐすねを引 ひ く	十分に用意 ようい をして敵 てき を待ち受 う ける。
372	手心 てしん を加 くわ える	寛大 かんだい な気持 きもち ちで、手加減 てかげん をする。
373	梃子 ていこ でも動 うご かない	何 なに があってもその場 ば から動 うご かない。何事 なにごと にも動じない強い信念 しんねん 。
374	手塩 てしお にかける	自分で直接 ちよくせつ 世話 せわ をし、大切 たいせつ に育てる。
375	手玉 てだま に取る	人を自分 じぶん の思い通り おもどお に操 あやつ る。
376	手 て に汗 あせ 握 にぎ る	危険 きけん な場面 ばめん や切迫 せつぱく した状況 じようきやう に成 な り行きがどうなるのかはらはらす。
377	手 て に余 あま る	自分の能力 のうりよく を超 こ えていて、どうにもならない。
378	手 て に付 つ かない	他のこと ほか に気を取 と られて、すべきことに集中 しゆうちゆう できない。
379	手 て に取 と るように	すぐ目の前 まえ にあるかのように実感 じつかん を持つて見えたり聞こえたりする。
380	手 て の内 うち を見 み せる	自分の心 しん 中 ちゆう にある計画 けいかく などを明 あ かす。又、技術 ぎじゆつ 、腕前 うでまえ を相手 あひ に見 み せる。

381	手の平(ひら)を返す(かえ)	人(ひと)に対する態度(たいど)を急に(きゆう)変える。
382	手(て)八丁(はっちよう)口(くち)八丁(はっちよう)	話(はな)すことも、することも非常(ひじよう)に長(た)けている。「口(くち)も八丁(はっちよう)手(て)も八丁(はっちよう)」と同意(どうい)。
383	手(て)も足(あし)も出(で)ない	力(ちから)が及(およ)ばず、自分(じぶん)ではどうすることもできない。
384	出(で)る幕(まく)がない	自分(じぶん)の能力(のうりよく)を生(い)かす場(ば)がない。
385	手(て)を上(あ)げる	降参(こうさん)する。手(て)に余(あま)り投(な)げ出(だ)す。殴(なぐ)ろうと手(て)を振(ふ)り上(あ)げる。
386	手(て)を入(い)れる	より良(よ)い状態(じょうたい)にするために補(おぎな)ったり、修正(しゆせい)する。
387	手(て)を打(う)つ	取引(とりひき)や交渉(こうしょう)をまとめる。将来(しやうらい)を予測(よそく)し対策(たいさく)する。
388	手(て)を変(か)え品(しな)を変(か)え	様々(さまざま)に手(て)段(だん)、方(ほう)法(ほう)を変(か)えて試(ため)してみる。
389	手(て)を借(か)りる	手(て)伝(つた)ってもらう。協(きよう)力(りよく)を仰(あお)ぐ。
390	手(て)を切(き)る	関(かん)係(けい)を断(た)ち切(き)る。縁(えん)を切(き)る。
391	手(て)を下(くだ)す	自(みず)か、直(ちよく)接(せつ)物(ぶつ)事(じ)を行(おこ)う。
392	手(て)を染(そ)める	新(あら)たに物(もの)事(じ)を始(はじ)める。新(あら)たな関(かん)係(けい)を持(も)ち始(はじ)める。
393	手(て)を出(だ)す	自(みず)か、進(すす)んで関(かん)与(よ)する。暴(ぼう)力(りよく)を振(ふ)るう。人(ひと)の物(もの)を盗(ぬす)む。
394	手(て)を尽(つ)くす	あらかゆる方(ほう)法(ほう)、手(て)段(だん)を使(つか)い、物(もの)事(じ)を实(じつ)現(げん)、解(かい)決(けつ)しようとする。
395	手(て)を握(にぎ)る	仲(なか)直(なお)りをする。協(きよう)力(りよく)し合(あ)い事(こと)を行(おこ)う。
396	手(て)を抜(ぬ)く	手(て)間(ま)を省(はぶ)き、い(い)加(か)減(げん)な仕(し)事(こと)をする。
397	手(て)を引(ひ)く	これまでの関(かん)係(けい)を断(た)ち切(き)つて退(しりぞ)く。手(て)を取(と)つて導(みちび)く。
398	手(て)を広(ひろ)げる	自(じ)分(ぶん)が関(かん)わ(わ)る範(はん)囲(い)を広(ひろ)げる。事(じ)業(ぎよう)を拡(かく)大(だい)する。
399	手(て)を回(まわ)す	ひそかに手(て)段(だん)をめぐらし働(はたら)きか(か)けて、必(ひつ)要(よう)な準(じゆん)備(び)をする。
400	手(て)を焼(や)く	うまく扱(あつか)えずに困(こま)る。てこずる。持(も)て余(あま)す。

401	伝家の宝刀 でんかほうとう	いざという時に使う、最後の手段。切り札。
402	天狗になる てんぐ	いい気になってうぬぼれる。
403	天秤に掛ける てんびんか	二つの物の優劣などを比較する。対立する二つのどちらを選んでも損の無いように両者と関係を付ける。
404	峠を越す とうげこ	最も勢いのある時期、最も危険な時期が過ぎる。
405	度肝を(胆)を抜く どぎもぬ	相手を心から驚かせる。
406	独壇場 どくだんじょう	その一人だけが思うままに活躍できる場面。
407	毒にも薬にもならない どくくすり	害はないが、役にも立たないどうでもよい物。
408	毒を食らわば皿まで どくくらわばさら	一度、悪事に手を染めてしまったからにはとことん悪事を重ねる。
409	毒を以て毒を制す どくもつどくせい	悪を始末するために、別の悪を用いる。
410	年甲斐もなく としがい	年齢にふさわしくない事をする。
411	土壇場 どたんば	決断をしなければならぬ最後の場面。
412	とどのつまり とどのつまり	結局のところ。
413	飛ぶ鳥を落とす勢い とりおろすいきわ	勢いがとても盛んな様子。
414	途方に暮れる とほうく	方法や手段をつくしたがうまくいかず、どうしたらよいかわからない。
415	虎の子 とらこ	大事にして手元に置き、手放さないもの。
416	取り付く島もない とりつくしま	頼りにしても、全く相手にしてもらえず話もできない。
417	取るものも取り敢えず とるものとりあへず	急な物事を大急ぎであわてて行う様子。
418	ない袖は振れない ないそでふ	実際にはないものは、どうにもならない。
419	長い目で見る ながめ	現状だけではなく、将来も見通し、気長に見守る。
420	流れに掉さす ながさお	機会をつかみ物事がうまく進み、勢いにのる。

421	名は体を表す なはい たいあらわ	名前はものの、中身や実体をよく表している。
422	涙に暮れる なみだ くら	ひどく悲しみ、泣いて暮らす。
423	涙を呑む なみだ の	悲しみや悔しさをぐっと堪え我慢する。
424	名もない な	多くの人に知られるほど有名ではない。
425	鳴り物入り な ものい	大げさな宣伝が行われること。
426	荷が重い に おも	力量に対して、責任や負担が大きすぎる。
427	苦虫を噛みつぶしたよう にがむし か	ひどく苦い物を噛んだように不愉快な表情を表す。
428	二足の草鞋を履く に そく わらじ は	同じ人が両立しないような二つの職業を兼ねる。
429	二の足を踏む に あし ふ	決心がつかず、ためらい、しりごみする。
430	二の舞を演じる に まい えん	前の人と同じ失敗を繰り返してしまふ。
431	糠喜び ぬか よろこ	一度喜んだ後に、当てが外れてがっかりする。
432	濡れ衣を着せられる ぬ ぎぬ き	身に覚えのない、無実の罪を負わされる。
433	猫の手も借りたい ねこ て か	非常に忙しく、例えだれでも人手が欲しい様子。
434	猫の額 ねこ ひたい	非常に狭いこと。
435	猫も杓子も ねこ しやくし	だれもかれも。なにもかも。
436	猫を被る ねこ かぶ	本性を隠し、おとなしそうに振る舞う。
437	寝た子を起こす ね こ お	せっかく収まった物事に余計な手出しをして、まためんどう起こす。
438	寝耳に水 ね みみ みず	思いがけない出来事や、不意な知らせに驚く。
439	根も葉もない ね は	全く根拠がない。でたらめ。
440	音上げる ね あ	苦しさに耐え切れず、弱音を吐く。降参する。

441	年貢 ねんぐ の納め時 おさどき	長く悪い行 わるおこな いを続けていた者が捕 つか まり罪 つみ に服 ふく さねがならな い時 とき 。物事 ものごと に見切りをつけ、あきらめるべき時 とき 。
442	熨斗 のし を付 つ ける	自分 じぶん には不要 ふよう なものを物 もの を喜 よろこ んで差 さ し上げる。厄介 やくかい 払いを する。
443	喉 のど から手 て が出 で る	欲 ほ しくてたまらないことの例 たと え。
444	乗 の りかかった船 ふね	一度 いちど 関わ かか ってしまった以上 いじょう 、途中 とちゅう で投げ出 な すわけにはいか ない。
445	歯 は が浮 う く	口先 くちさき だけの軽々 かるがる しい言葉 ことば を不快 ふかい に感 かん じる。
446	歯 は が立たない	自分 じぶん の力 ちから をはるかに超 こ えるほど強大 きょうだい で、まるで対抗 たいこう するこ とができない。
447	拍 はく が付 つ く	値打 ねうち や評価 ひやうか が高 たか くなる。貫禄 かんろく が付 つ く。
448	白紙 はくし に戻 もど す	これまでの事 こと をなかつたものとして元 もと に戻 もど す。
449	拍車 はくしゃ を掛 か ける	物事 ものごと の進 しん 行 こう をいつそうはやめる。
450	薄氷 はくひょう を踏 ふ む	危険 きけん な状況 じょうきょう にひやひやしながら臨 のぞ む。
451	箸 はし にも棒 ぼう にも掛 か からない	あまりにひどく、どうしようもない。何 なん の取 と り柄 え もない。
452	蜂 はち の巣 す をつついたよう	大きな騒 さわ ぎとなり手が付 つ けられない様子 ようす 。
453	八方塞 はっほうふさ がり	どの方向 ほうこう に進 すす んでも不利 ふり な状況 じょうきょう で手 て の打 うち ちようがない。
454	鼻息 はないき が荒 あら い	意気 いき 込みが激 はげ しく、強気 つよき で威勢 いせい が良い。
455	話 はなし に花 はな が咲 さ く	興味 きょうみ のある話題 わだい がたくさんあって、会話 かいわ がはずむ。
456	鼻 はな であしらう	相手 あいて の言葉 ことば に取り合 あ わず、ばかにして冷たい対応 たいおう をする。
457	鼻 はな に掛 か ける	得意 とくい がり自慢 じまん する。
458	鼻 はな に付 く	飽 あ きて嫌 いや になる。相手 あいて の言動 げんどう をうっとおしく感 かん じる。
459	鼻持 はなもち にならない	嫌味 いやりみ のある言動 げんどう や様子 ようす が不愉快 ふゆかい で我慢 がまん ならない。
460	鼻 はな を明 あ かす	相手 あいて を出 だ し抜きあつと言 い わせる。

461	花を持たせる はなも	人に勝利や名誉をゆずり、相手をたてる。 ひとしょうりめいよあいて
462	歯に衣着せぬ はきぬぎ	遠慮なく相手に思ったとおりのことを言う。 えんりよあいておも
463	羽を伸ばす はねの	束縛から解放され、自由にのびのびと振る舞う。 そくばくかいはうじゆう
464	幅を利かせる はばき	勢いづいて思い通りに振る舞い、威張る。 いせいでおもどおふ
465	羽目を外す はめはず	調子にのり度を超す。 ちようしどこ
466	腹が黒い はらくろ	心の中では悪い考えをしている。 こころなかわるかんが
467	腹に据えかねる はらす	怒りを我慢できる範囲を超える。 いかがまんはんいこ
468	腹の虫が収まらない はらむしおさ	腹が立って我慢できない。 はらたがまん
469	腸が煮えくり返る はらわたにこえ	激しい怒りで黙ってられない。 はげしいいかだま
470	腹を決める はらき	覚悟を決める。決心する。 かくごきけしん
471	腹を割る はらわ	本心をすべてさらけ出し、打ち明ける。 ほんしんすべてさらかけだしうちあける
472	張り子の虎 はりこトラ	見かけだけで、実力もなく威張る人。主体性がなくうなずいてばかりの人。 みかけだけでじつりよくいばひとしあたいせい
473	反旗を翻す はんきひるがえ	反逆する。従っていたものが公然と命令を聞かなくなる。 はんぎやくししたがこうぜんめいれいきかなくなる
474	膝を交える ひざまじ	お互いにうちとけて親しく語り合う。 たがたがたかたあう
475	額を集める ひたいあつ	人が集まって相談する。 ひとあつそうだん
476	左うちわで暮らす ひだりうちわく	生活が豊かで苦労なく気楽に過ごす。 せいかつゆたかきらくきらくにすごす
477	筆舌に尽くし難い ひつぜつつかた	あまりに度を越えていて、文章や言葉では表現できない。 あまりにどをこえいてぶんしょうごたひようげん
478	一泡吹かせる ひとあわふ	不意を突いたり、予想外なことをして驚き慌てさせる。 ふいふついたりよそうがいおどろあわ
479	一筋縄ではいかない ひとすじなわ	通常のやり方では処理できない。簡単ではない。 つうじょうようしりかんたん
480	一旗揚げる ひとはたあ	新たに事業を始める。会社などを興して成功を収める。 あらたにじぎょうはじめかいしをおこせいこうをさめる

481	一肌脱ぐ ひと はだ ぬ	人のために本気になり力を貸す。
482	一人（独り）相撲を取る ひとり ずもう と	相手がいない、または相手にされていないのに自分一人で 勝負つてことに取り組む。また、その結果徒労に終わる。
483	火に油を注ぐ ひ あぶら そそ	激しい勢いのものに、さらに勢いを与える。
484	非の打ち所がない ひ う ない	完全・完璧で少しの欠点もなく非難するところがない。
485	火の車 ひ くるま	経済状態が苦しくやりくりに困っている。
486	日の目を見る ひ のめ み	今まで知られていなかったものが、ようやく世に認められ る。
487	火花を散らす ひばな ち	互いに激しく争う。
488	火蓋を切る ひぶた き	戦いや争い、競争を始める。
489	冷や飯を食う ひやめし く	冷たく扱われる。
490	氷山の一角 ひょうざん いっかく	大きな物事のほんの一部分。
491	ピリオドを打つ ピリオド う	それまで続けてきたことに決着をつける。
492	火を見るより明らか ひ み あき	疑う余地もないほど明らかである。
493	ピンからキリまで ピン から キリ まで	最高から最低まで、または、最初から最後まで。
494	風雲急を告げる ふううんきゅう つ	大きな出来事が起こりそうな、さしせまった状態であるこ と。
495	風前の灯 ふうぜん ともしび	危険が迫り、今にも減んでしまいそうな様子。
496	袋の鼠 ふくろ ねずみ	追い詰められて逃げられない状態。
497	筆が立つ ふで た	文章を書くのが巧みである
498	腑に落ちない ふ お	納得できない。合点がいかない。
499	へそが茶を沸かす へそ ちゃ わ	ばかばかしくて仕方がない。または、おかしくてたまらな い。
500	へそを曲げる へそ ちや わ	機嫌を悪くして意地を張る。また、わざと意地悪をする。

501	屁の河童 へのかつば	なんとも思わないこと。するのがとても簡単なこと。
502	弁慶の泣き所 べんけいのなぐどころ	強い人のたったひとつだけの弱点や急所。むこうずね。
503	片鱗を示す へんりんをしめ	優れた実力や知識の一部を少しだけ見せる。
504	判官びいき はんがんひんがん	運の悪い人や弱い立場の人に同情したり、味方しようと思 う気持ち。
505	棒に振る ぼうをふる	めったにない機会を逃してしまったり、それまでの努力や 苦労を無駄にしてしまう。
506	頬が落ちる ほおおちる	とてもおいしいものを食べたときに使うたとえ。
507	墓穴を掘る ぼけつほ	自分の立場を悪くしてしまうような原因を自分自身でつく つてしまう。
508	矛先を向ける ほこさきむ	言い争うときなどに、攻撃の方向をそちらへ向ける。
509	骨が折れる ほねお	ある仕事に時間や手間、労力がかかって、困難であつた り、苦労したりする。
510	骨身を惜しまず ほねみお	苦労や面倒を嫌がることなく。
511	骨身を削る ほねみけず	体が痩せて細くなってしまうほどに、一生懸命苦労したり 努力したりする。
512	骨を埋める ほねう	ある一つのことによって人生をささげること。また、ある土地に ずっととどまつてその生涯を終える。
513	骨を折る ほねお	一生懸命努力し苦労する。嫌がらずに人の世話をする。
514	洞が峠を決め込む ほらとうげきこ	物事のなりゆきを見計らつて有利な方に味方しようとして、は つきりしない態度をとる。
515	盆と正月が一緒に来たよう ぼんしょうがついつしよき	うれしいことや楽しいことが続く。とても忙しい。
516	枚挙に暇がない まいきよいとま	数が多すぎて数え上げたらきりがない。
517	魔が差す まさ	ふと何かの拍子に判断や行動を誤り悪い考えが浮かぶ。
518	間が抜ける まぬ	肝心なことが抜けていて、ばかげて見える。
519	間が悪い まわる	①運や時機が悪いこと。②体裁が悪くて恥ずかしく感じる。
520	巻き添えを食う まきぞく	関係のない他人の起こした事件などに巻き込まれて、損害 を受ける。

521	馬子にも衣装 まごにもいしょう	どんな人でも、服装を整えていれば立派に見える。
522	末席を汚す まつせきをけが	目上の人の集まりなどに自分を加えてもらったときに、そのことをへりくだって言う言葉。
523	的を射る まとをい	要点をきちんとつかんでいる。
524	俎板の鯉 まないたこい	相手に自分の運命をにぎられている。
525	眉をひそめる まゆをひそめる	他人の不愉快な行動を不快に思い顔をしかめる。また、心配ごとや不安から顔をしかめる。
526	真綿で首を絞める まわたくびをし	時間をかけて遠まわしにじわじわと責める。
527	見栄を切る みえをき	自分のことを誇って見せるような大げさな言動や態度をとる。
528	見栄を張る みえをは	外見を必要以上に飾って、人に良く思われようとする。
529	身が入る みはい	ある物事に集中して、全力を注ぐ。
530	右から左 みぎからひだり	手に入れた金品や知識などが、そのまま他へ流れてしまい、自分の手元に残らない。
531	右といえ左 みぎといひだり	他人の言うことにはとにかく反対する。
532	みこしを上げる みこしをあ	それまではじめようとしなかった物事にとりかかる。
533	水と油 みずあぶら	二つの物や人の性質、性格が互いに合わず、一つにまとまらない。
534	水に流す みずなが	過去に起きたけんかやいやなことをあれこれ言わずに、なかったことにする。
535	水の滴るよう みずしたた	（ふつつ、美男や美女に対して）みずみずしくて魅力的なことを例える言葉。
536	水も漏らさぬ みずもも	何かの計画を立てたり、何かを警戒することについて、少しも不注意や油断がなく、完璧な様子。
537	水をあける みずあ	何かの順位や能力で、競争相手との差を大きく広げ、引き離す。
538	水を打ったよう みずうち	ある場所に大勢の人がいるときに、人々が物音を立てずに、場が静まり返る様子。
539	水を得た魚のよう みずえさかな	その人にあつた環境や職場などで、生き生きと活躍している様子。
540	水を差す みずさ	物事がうまくいっているときに、それを邪魔するようなことを言う。

541	味噌 みそ を付 つ ける	失敗 しつぱい する。失敗 しつぱい して恥 はじ をかく。
542	道草 みちくさ を食 く う	物事 ものごと の途 とちゆう 中で別 べつ のことをして、時間 じかん を取 と られてしまう。
543	身 み に余 あま る	与 あた えられた待遇 たいぐう が、自分 じぶん の価値 かち や能力 のうりよく 、身分 みぶん や業績 ぎよくせき などを超 こ えていて、もったいない。
544	身 み に染 し みる	①心の底 そこ から深く感 かん じられる。実感 じつかん すること。②(秋 あき)の冷え込み こみ などが(強く感 かん じられる。
545	身 み に付 つ ける	①衣服 いふく を着 き る。品物 しなもの を体 からだ につけて持 も つ。②習 なら った技術 ぎじゆつ や能力 のう を覚 りよくおぼ え、実際 じつさい に使 つか えるようになる。
546	身 み につまされる	他人 たにん の不幸 ふこう や失敗 しつぱい に共感 きようかん し、切実 せつじつ に感 かん じる。
547	身 み の毛 け がよだつ	恐怖 きようふ や気味悪 きみわる さのあまり、ぞつとして毛 け が逆立 さかだ つように感 かん じる。
548	耳 みみ が痛 いた い	他人 たにん の言葉 ことば が自分 じぶん の欠点 けつてん や弱点 じやくてん を指摘 しごき していて、聞 き いていてつらい。
549	耳 みみ が早 はや い	ニュースや噂話 うわさばなし を、他 ほか の人 ひと よりも早 はや く知 し っている。
550	耳 みみ 慣 な れない	それまで聞 き いたことのない、珍 めずら しい物事 ものごと 。
551	耳 みみ に入 い れる	①人に情報 じようほう などを伝 つた える。②情報 じようほう などを聞 き いて知 し る。
552	耳 みみ にたこができる	同じことをいやになるほど何度 なんど も聞 き かされる。
553	耳 みみ に付 つ く	①ある音 おと や声 こえ が気 き になり、忘 わす れられなくなる。②音 おと や声 こえ などがうるさい。
554	耳 みみ に挟 はさ む	ちよつと聞 き く。
555	耳 みみ を疑 うたが う	予想 よそう もできなかつたことを聞 き き、信 しんじ じられない。聞 き き間違 まちが えたのではないかと疑 うたが う。
556	耳 みみ を貸 か す	相手 あいて の話 はなし や相談事 さうだんじ を聞 き いてあげる。
557	耳 みみ を傾 かたむ ける	聞 き き逃 のが しなどのないように注意 ちゆうい して聞 き く。熱心 ねつしん に聴 き く。
558	耳 みみ を澄 す ます	人 ひと の話 はなし や音 おと などを聞 き こうとして、神経 しんけい を集中 しゆうちゆう する。
559	耳 みみ をそばだてる	神経 しんけい を集中 しゆうちゆう させ、聞 き き取 と ろうとする。
560	耳 みみ を揃 そろ える	お金 かね や品物 しなもの を、必要 ひつよう な分 ぶん だけきつちりそろえて用意 ようい しておく。

561	身も蓋もない み ふた	言葉がはつきりとしすぎていて、おもしろみも何もない。
562	見る影もない み かげ	過去の状態と比較するとみすばらしくみじめである。
563	身を入れる み い	一生懸命打ち込む。
564	身を切られるよう み き	寒さや苦しさを悲しさがとても厳しく感じられる。
565	身を削る み けず	自分の体を痛めてしまうほどに、苦勞をしたり、心が痛んだりする。
566	身を立てる み た	①一人前の仕事ができるようになり、その仕事の収入で生活できるようになる。②出世し、世の中に認められる。
567	虫がいい むし	自分の都合ばかり考え、他のことを考えない。身勝手である。
568	虫が知らせる むし し	なんとなく、何か(たいていは悪いこと)起きる予感がする。
569	虫が好かない むし す	理由は特にないの、好きになれないこと。
570	虫の息 むし いき	今にも死んでしまいそうな様子。また、そのときの呼吸。
571	虫の居所が悪い むし いばい	機嫌が悪くて、普段は気にならないようなことでも腹がたつ。
572	虫も殺さない むし ころ	おとなしくて心優しい。また、(実際はそうではないとしても)外見からはそのように見える。
573	胸が痛む むね いた	心配ごとや悲しみ、うしろめたさなどから、辛く感じる。
574	胸が一杯になる むね いっぱい	悲しみや喜びなどの感情が高まって、心が満たされる。
575	胸が躍る むね おど	期待や興奮でわくわくして、落ち着かなくなる。
576	胸が騒ぐ むね さわ	不安や心配、または期待などで、心が落ち着かなくなる。
577	胸がすく むね	心が晴れやかになる。すっきりする。
578	胸がつぶれる むね	悲しみや心配で胸が締め付けられるように感じる。
579	胸が詰まる むね っ	喜びや悲しみなどの感情がこみあげて、何もいえなくなる。
580	胸が張り裂ける むね はさ	悲しみや苦しみ、憎しみなどで、耐えられないほどの苦痛を感じる。

581	胸 むね に刻 きざ む	大切なことを、しっかりと心 こころ にとどめて、忘 わす れないようにする。
582	胸 むね を打 う つ	深く感動 かんどう する。深く感動 かんどう させる。
583	胸 むね を貸 か す	実力 じつりょく のある人 ひと が、自分 じぶん よりも実力 じつりょく が下 した の人 ひと の相手 あいて をしてあげること。
584	胸 むね を借 か りる	実力 じつりょく のない人 ひと が、自分 じぶん よりも実力 じつりょく のある人 ひと に相手 あいて をしてもらう。
585	胸 むね をなで下 お ろす	心配 しんぱい 事がなくなったり、物事 ものごと がうまくいき、安心 あんしん する。
586	胸 むね を張 は る	堂々 どうどう とした、自信 じしん に満 み ちた態度 たいど をとる。
587	無用 むよう の長物 ちやうぶつ	役 やく に立たないだけでなく、むしろ邪魔 じゃま になるもの。
588	明暗 めいあん を分 わ ける	勝ち負 ま け、幸不幸 こうふこう など、二つの反対 はんたい のものが、はっきりと分けられる。
589	目 め が利 き く	物の本当 ほんとう の価値 かち や真贋 しんがん （本物か偽物かどうか）を見分 みわけ ける力 ちから を持つ も っている。
590	目 め が眩 くら む	①強い光などで、目 め が見えなくなる。②何かに心 こころ を奪 うば われ、判断 はんだん ができなくなる。
591	目 め が肥 こ える	優れたものを何度も見て、価値 かち を見分 みわけ ける力 ちから をつける。
592	目 め が覚 さ める	迷 まよ いがなくなり、本来 ほんらい の進 すす むべき道 みち に戻る。
593	目頭 めがしら が熱 あつ くなる	深く感動 かんどう して、涙 なみだ が浮 う かんでくる。
594	目 め が高 たか い	物の価値 かち を見極 きわ める力 ちから を持っている。
595	目 め が出 で る	物事 ものごと がうまく具合 ぐあい に進 すす む。幸運 こううん が巡 めぐ ってくる。
596	芽 め が出 で る	報 むく われない状態 じょうたい から抜 ぬ け出し、成功 せいこう の糸口 いとぐち が見 み えてくる。幸運 こううん が巡 めぐ ってくる。
597	目 め が届 とど く	注意 ちゅうい や監督 かんとく が行 い き渡 わた る。
598	目 め がない	①思わず夢中 むちゅう になつてしまうほどに好きである。②物事 ものごと の価値 かち などを正しく判断 はんだん する力 ちから がない。
599	眼鏡 めがね にかなう	目上 めうえ の人 ひと に気 き に入 い られる。認め みと られる。
600	目 め が回 まわ る	①めまいがする②非常に速 はや いことや忙しいことのたとえ。

601	目から鱗が落ちる めからうろこお	あるきっかけで、それまでわからなかった物事が急に理解できるようになる。
602	目から鼻へ抜ける めからはなぬ	抜け目がなく、判断がすばやい。賢くて、利口なさま。
603	目から火が出る めからひで	頭を強くぶつけた時などに、一瞬目の前で光が飛び交うように感じることに。
604	目くじらを立てる めくじらをたてる	ささいなことで他人を責めること。
605	目白押し めじろお	人や物がたくさん混みあつて並んだり、集中して物事がある。
606	めどが付く めどがつく	物事を実現させるための見通しがはつきりする。
607	目と鼻の先 めはなさき	二つの場所の距離がとても近い様子。
608	目に余る めあま	物事の程度がひどすぎて、無視できない。
609	目に入れても痛くない めに入れてもいたない	子どもや孫などがかわいくてたまらない。
610	目に浮かぶ めう	目の前にはない様子や姿を、実際に見ているかのように思ふに浮かべることができる。
611	目に留まる めと	いくつもあるもののなかで、特に注意をひきつける。
612	目にも留まらぬ めにもと	はつきりと確認することができないくらい、動きが素早い様子。
613	目の色を変える めいろをか	何かに怒ったり、驚いたり、熱中したりして、目つきが変わる様子。
614	目の敵にする めかたき	誰かのことをやたらと嫌い、敵視する。
615	目の毒 めどく	見ると欲しくなってしまうたり、害になったりするので、見ないほうがいい物。
616	目の前が真っ暗になる めまえまくらになる	絶望的になり、どうすればいいのかわからなくなる。
617	目星を付ける めぼしをつ	見当や見通しをつける。目標を決める。
618	目も当てられない めあ	あまりにも悲惨な状態で、見るに堪えない。
619	目もくれない めめ	何の興味も示さず、見向きもしない。
620	目を疑う めうたが	意外すぎるものを見て、にわかには信じられず見間違いではないかとさえ思ってしまう。

621	目を掛ける	目に入っている人などを特にひいきしたり、世話したりする。
622	目を配る	見落しがないように、あちこちを注意して見る。
623	目を凝らす	じっと見つめる。
624	目を皿のようになる	物を探す時や、何かに驚いた時などに、目を大きく見開く。
625	目を白黒させる	あまりの苦しさに目を激しく動かす様子。あわてふためく様子。
626	目を付ける	関心をもって注意を向け様子を見る。
627	目をつぶる	人の欠点や悪事・失敗に気が付いていても、見て見ぬふりをする。
628	目を通す	本などの全体を、大まかに見たり読んだりする。
629	目を盗む	人に見られないように、こっそりと事を行う。
630	目を離す	油断したりして、注意して見ていたものから目をそらす。
631	目を光らす	不正などが無いように、注意して見張る。
632	目を細める	かわいいものを見たり、うれしいことがあつて、につこりほほ笑む。
633	目を丸くする	驚いて目を見開く。
634	目を回す	①気絶してしまう。②非常に忙しいさま。
635	目を見張る	驚きや感心から、目を大きく見開く。
636	面目を施す	①自分の名誉を傷つけずに済む②それまで以上に、世間で評価を高める。
637	元のさやに納まる	一旦関係が悪くなった者同士が、再び元の親しい関係に戻る。
638	元も子もない	努力の成果だけでなく、失う必要のないものまで何もかも失う。
639	物心が付く	幼児期を過ぎるくらいまで成長して、世の中のことが少しずつ分かり始めてくる。
640	物にする	①技術などを習得する。②狙っていたものを手に入れる。

641	物になる もの なる	①一人前になる。②物事が出来上がる。
642	物の数 もの かず	注目すべき、問題するに値するもの。
643	物の見事に もの みごと	手際がよく、あざやかである。実に見事な様子。
644	物は相談 もの そうだん	困った時、一人で考えず人に相談すべきである。また、そうすれば解決策が出てくるかもしれないということ。
645	諸(両)刃の剣 もろ は つるぎ	役に立ったり、相手に打撃を与えたりすることができる一方で、自分にも害を与える可能性のあるもの。
646	門前払い もんぜんばらい	訪ねてきた人に会わずに、追い返す。
647	矢面に立つ や おもて た	相手の質問や攻撃が集中する立場に立つ。
648	役者が一枚上 やくしゃ いちまいうえ	知恵や人柄、駆け引きなどが、他人よりも一段優れている。
649	焼け石に水 や いし みず	少しぐらいの努力や援助では、効果が上がらない。
650	野次を飛ばす やじ と	他人を邪魔するために、大声で相手をからかったり、ひやかしたりする。
651	痩せても枯れても やせ ても か れて も	どんなに衰えたり、落ちぶれたりしても。
652	柳に風 やなぎ かぜ	無理に相手に逆らわず、さらりと軽く受け流し相手にしない。
653	野に下る やくだ	公職(公務員や議員、政治家などの公的な仕事)を退いて、民間の人になる。下野する。
654	矢の催促 や さいそく	はやくするようにと、しきりに催促する。
655	藪から棒 やぶ ぼう	前触れもなく、いきなり何かを言ったりやったりする。
656	山が当たる やま あ	勘が当たること。予想していたとおりになる。
657	山が見える やま み	困難なことを終えて、目標を達成する見通しが立つ。
658	山を掛ける やま か	ある事について予想を立てて、それをもとに準備する。
659	矢も楯もたまらず や たて も たまら ず	思い詰めて、我慢することができない。あることがしたくてたまらない。
660	槍玉に挙げる やりだま あ	たくさんの人から特に一人を選んで、その人を集中して非難・攻撃する。

661	有終 ゆうしゆう の美 び を飾 かざ る	物事 ものごと をやり通 とお して、最後 さいご に立派 りっぱ な成果 せいこ を上げ あ て終 お わる。
662	勇断 ゆうだん を下 くだ す	勇気 ゆうき を出 だ して決断 けつだん する。
663	油断 ゆだん も隙 すき もない	少しも油断 ゆだん できない。
664	指折 ゆびお り数 かず える	一日 いちにち 一日 いちにち を数 かぞ えながら、その日 ひ が来 く るのを待 まち ち遠 とほ しく思 おも う。
665	指 ゆび をくわえる	うらやましくおもっているのに、手 て を出 だ すことができな
666	弓折 ゆみお れ矢 や 尽 つ きる	い。 持 も てる力 ちから のすべてを出 だ し切 き って戦 たたか い敗 やぶ れ、それ以上 いじょう どうにもならない。
667	湯水 ゆみず のよう に 使 つか う	お金 かね をおしみなく浪費 ろうひ する。
668	弓 ゆみ を引 ひ く	背 そむ き逆 さか らう。
669	夢 ゆめ のまた夢 ゆめ	夢 ゆめ の中 なか で見 み る夢 ゆめ のよう に 、とてもはかないこと。実現 じつげん しそ
670	夢枕 ゆめまくら に立 た つ	うにないこと。 夢 ゆめ の中 なか に神仏 しんぶつ や個人 こじん が現 あらわ れて、物事 ものごと を告 つ げる。
671	用 よう が足 た りる	必要 ひつよう にして十分 じゅうぶん である
672	洋 よう の東西 とうざい を問 と わず	世界中 せかいじゅう どこでも。
673	要領 ようりよう がよい	①手際 てざわ がよい②立 た ち回 まわ りがうまく人 ひと に取り入 と るのがうま
674	要領 ようりよう を得 え ない	い。 肝心 かんじん なことが何 なん なのかはつきりしない。
675	欲 よく に目眩 めくら む	欲望 よくぼう のせい で 正しい判断 はんだん ができなくなる。
676	横車 よこぐるま を押 お す	道理 どおり に合 あ わな い ことを、力 ちから づくで押 お し通 とお す。
677	横 よこ の物 もの を縦 たて にもし な い	めんどうくさが つ て、何 なに もしない。
678	横槍 よこやり を入 い れる	関係 かんけい のない人 ひと が横 よこ から口出 くちだ しして話 はなし や行 こう 動 どう を妨 さまた げる。
679	四 よ つに組 く む	正面 しょうめん から堂々 どうどう と相 あ 手 て にぶ つ かる。
680	余念 よねん がな い	他 ほか のことに気 き を散 ち らさ ず に、一 ひと つのことに集 しゆっ 中 ちゆう する。

681	呼び水 よみず になる	ある物事 ものごと を引き起こすきっかけになる。
682	弱音 よわね を吐く は	弱々 よわよわ しく、意気地 いきぢ のないことを言う。
683	世 よ を挙 あ げて	世間 せけん の人々 ひとびと がみんなで。
684	夜 よ を徹 てつ する	徹夜 てつや で物事 ものごと を行う。
685	世 よ をはばかり	世 よ の中に遠慮 えんりょ して、人前 ひとまえ に出るのを避ける。人目 ひとめ を避けてひっそりと暮らす。
686	烙印 らくいん を押 お される	消せない汚名 おめい (悪い・不名誉 ふめいよ な評判 ひょうばん)を受ける。また、そのような人物 じんぶつ だと決めつけられる。
687	埒 らち が明 あ かない	問題 もんだい が解決 かいけつ しない。仕事 しごと がはかどらない。
688	溜飲 りゅういん が下 さ がる	不平 ふへい 不満 ふまん や怒り いか が消えて気が晴れる。すっきりする。
689	竜虎相打 りゅうこあい つ	優劣 ゆうれつ つけがたい二人 ふたり の強豪 きやうこう が争う。
690	両手 りやうて に花 はな	①一人 ひとり の男性 だんせい が二人 ふたり の女性 じよせい を連れている。②二つのすばらしいものを一度に手に入れる。
691	両天秤 りやうてんびん に掛 か ける	二つの物の優劣 ゆうれつ などを比較する。対立する二つのどちらを選んでも損 そん の無いように両者と関係を付ける。「天秤に掛ける」と同意。
692	例 れい によつて例 れい のごとし	いつもと同じことの繰り返しで、新しいことは何も無い。
693	レッテルを貼 は る	一方的に決めつけて評価する。
694	老骨 ろうこつ に鞭打 むちう つ	老いて弱 よわ った体を励 はげ ましながら物事 ものごと を行う。
695	路頭 ろとう に迷 まよ う	家や仕事 しごと がなくなつてしまい、ひどく困 こま つてしまう。
696	呂律 ろれつ が回 まわ らない	舌 した が回 まわ らず言葉 ことば をうまく話 はな せない様子。
697	論 ろん をまたない	議論するまでもない当然のことである。
698	我が意 い を得 え る	自分の考えとぴったり一致する。物事 ものごと が自分の思った通りに進む。
699	若気 わかげ の至 いた り	若さからよく考えずに感情 かんじよう のままに行動して、失敗 しつぱい をすること。
700	我が道 みち を行 い く	他人 たにん のことは気にせず、自分の思うとおりに行動する。

701	脇目も振らず わきめふ	よそ見をせず、ひたすらひとつのことに集中する。 しゅつちゅう
702	渡りに船 わたふね	困っているときや何かをしたいときに、都合のいいことが起こる。 こまおこる
703	藁にもすがる わら	窮地に立たされた時に、全く頼りにならない物にさえすがろうとする。 きゆうちたまた頼りにならないもの
704	割に合う わりあ	努力や苦勞に比べて、利益のほうが多い。苦勞に見合う価値がある。 どりよくうらうべりえきのおおきくうらうみあうじやう
705	割を食う わりく	損をする。 そん
706	我に返る われかえ	氣を失っていたり、何かに心を奪われていた状態から、正氣に返る。 きうしななにかこころをうばわれていたじやうたいしやうきにかえ
707	我を忘れる われわす	すっかり夢中になって、冷静に判断する力を失う。 むちゅうれいせいはんだんするちからうしな
708	輪を掛ける わか	いいことでも悪いことでも、一層大げさににする。 いことでもわるいことでも、いっそうおおげさにする